

令和6年度第2回伊勢市子ども家庭支援ネットワーク委員会議 議事録

日 時 令和6年12月19日（木）午後1時30分～

場 所 伊勢市健康福祉ステーション7階 会議室1・多目的ルーム

出席委員 秋山委員、辻村委員、竹澤委員、奥田委員、山路委員、久保田委員、竹内委員、
鎌田委員、前田委員、中村元委員、小林委員、内田委員、加藤委員、城委員、
濱地委員、樋口委員、中川委員、志賀委員

欠席委員 田口委員、岡村委員、中村光委員、岡本委員、奥野委員、村井委員

事務局 健康福祉部理事、参事、福祉総合支援センター主幹、こども家庭相談係長、健康
課係長（代理出席）ほか4名

議 題 議案第1号 伊勢市子ども家庭支援ネットワーク上半期活動実績について
議案第2号 「こども虐待防止啓発月間」における活動について
議案第3号 伊勢市の児童虐待防止への取り組みについて
ヤングケアラーの取り組みについて

1 はじめに

【事務局】

開催挨拶、欠席委員報告、事務局紹介

【会長あいさつ】

2 報告・協議事項

議案第1号 伊勢市子ども家庭支援ネットワーク上半期活動実績について

【事務局】議案第1号についての説明

【委員からの主な意見】

- ・令和5年度三重県および南勢志摩児童相談所の統計報告（南勢志摩児童相談所）
- ・児童養護施設に入所する段階で既に中高生というケースがここ数年多い。入所の年齢が高いほど社会に出るまでの期間が短く難しい面もあるが、子どもたちに少しでも居場所づくりということを心がけながら日々奮闘している。
- ・児童養護施設に入所するまでに子どもたちは身近な人にSOSを出している。一番大事なのは、なるべく早い段階で子どものSOSに気づき、発見して対応していくことである。
- ・子どもの意見を聴くことが重要であると言われていたが、子どもは聴かれたことがないので、自分の気持ちをなかなか言えない。また、地域のつながりの希薄化や親の忙しさなどで子どもが自分の気持ちを出せる場所が少なくなっているのではないかと。

議案第2号 「子ども虐待防止啓発月間」における活動について

【事務局】議案第2号について報告

【委員からの主な意見】

- ・市での「子どもの権利手帳」の活用について

議案第3号 伊勢市の児童虐待防止への取り組みについて

ヤングケアラーの取り組みについて

【事務局】議案第3号について報告

【委員からの主な意見】

- ・飛び込み出産については、離婚・ひとり親になるなどリスクを抱え、その後、市の支援が必要となる方が多い。
- ・ヤングケアラーにしても虐待にしてもどこで線を引くかは難しい問題である。家での手伝いも社会勉強として大事なことだと思っているので、そのなかで家庭に踏み込んでいけるのが課題である。行政・福祉と学校とが連携しながら解決のため一緒に進めていく必要がある。

3 その他

【委員からの主な意見】

- ・虐待防止のチラシは保護者が意識していただくものと思っている。子どもにもチラシを配っていることを保護者に周知することで、子どもの育て方や日々の言葉態度に気をつけなければいけないということが伝わるのではないかとと思っている。
- ・子どもたちが意見表明ができるようになるには、大人への不信感などを取り払い、子どもの権利を理解させる必要があるが、そのためには日々の生活の中であきらめずに子どもとの信頼関係を築くことが大事である。